

● 2012/09/29

9/29(土)付 朝日新聞朝刊に掲載されました。

2012年9月29日(土)付 朝日新聞朝刊に掲載

「オンリーワン」任せて



電車のシートのカッション材にカバーをかぶせる作業。関東の鉄道で使われる一京都市営京田辺市大住

豪華な高級車、よほどか
のフアット、型式は、
。他も豪華なビンテージ
落ち着いたパースで様
々だ。同社の展示室は、
これまで手がけた車種が
ずらり並ぶ。

1943年、乗務員の
子会社として東京の製
造を開始。電車のシート製

「近畿の底ぢから」
JR、阪急、阪神が関西の主要鉄道から
自動車、船舶まで、乗り物用のシートの生産
を続ける住江工業。「オンリーワン」を追い
求める顧客からの難しい注文にもきめ細かく
応じる姿勢が業界でも評価されている。近
年は海外の鉄道でも広く使われている。

科学的にも快適さ追求

住江工業 本社・京都府京田辺市大住。電車や
車などの座席を設計、開発、製造するメーカー。
張り替えや部材交換も行う。従業員数は1800人
(9月現在)。徳島川原や福岡県にも工場があ
る。2011年3月期の売上高は30億7千万円。

科学的にも快適さ追求
A社のトバイのモノシ
ルなどでも開発がある。
大勢の人が利用する車庫
だけに燃費にたいして乗客を
運び、スピードが求めら
れる車庫には工夫が凝ら
れる。体圧分布の測定など
によって科学的にも快適
さを追求して、乗客と車
計・開発システムの開発
正基さん(右)。

乗用車の普及が進むなど
も自動車シートの開発に
も力を入れた。83年、都市
なにあつた福岡県3カ所
を統合して京都府京田辺市
に移転した。

かつては「車庫」だっ
たが、近年は「多目的の少
量生産」がモットー。人口
減少の時代、各鉄道会社は
「ユニークな座席で乗客を
呼びたい」と求める傾向に
あるからだ。「高級感があ
る上」に、「非日常感があ
る」ワタクワクであるよう
に、「多様なニーズに
も対応できるようにしてい
る」という。



乗り物用シートの住江工業

い、高級感が乗客に伝
上げた。JR西日本の特急
「くろしお」に採用され、
子ども向けの「パンダシ
ート」は、かわいらしい
を追求した力作。阪急の
「京とれいん」は、座席の
一部に表を使い、「和」の
雰囲気を出した。
今後どのような製品が
求められるのだろうか。鉄
道事業者の本部長さん(右)
は目を凝らす。住江工業の
時代、昔々でも動かす
るような高級感や、リサイ
クル可能な素材の使用が一
層進むと見られ、高級化に向
けて乗りやすさなども求め
られるでしょう。(取材先)



阪急の「京とれいん」の座席



JR西日本の特急「くろしお」のパンダシート-住江工業提供

↑クリックでPDFが開きます。